



マップを手に

## 勝山左義長まつり

今年の左義長まつりでは、市外・県外からの来訪者が目立ち、左義長マップを手に各櫓を巡る姿が例年よりも見られました。これは、まちづくり団体の「らぶ勝」が作成したもので、左義長の見どころやマップを手書きでまとめてあり、青年会議所が作成したスタンプラリーマップとともに、好評を得ていました。



子どもたちも主役

赤い長襦袢を着た大人たちが主役だった左義長まつりも、今では、子どもたちも櫓に上がり、大人顔負けの「浮き」を披露しています。今年で40回の節目を迎える子どもばやしコンクールでは、子どもたちの笑顔が、本当にうれしそうで見ている側にも元気を与えてくれるようでした。結果は、下長洲区が4年連続の市長賞獲得。

三屋裕子さんも浮いた！

勝山市出身の元五輪バレーボール選手三屋裕子さんが、上郡地区の櫓で「浮き」を披露しました。今回は三屋さんが主宰する団体「健康寺子屋」の参加者40人で左義長も見学に来られ、「生まれたときから櫓が家のそばにありました。お囃子を聞いて懐かしかったです。」と久しぶりの櫓の上で左義長囃子を満喫していました。

左義長大使に椎名 誠さん

2月27日に、勝山市は作家の椎名誠さんを「かつやま・左義長大使」に委嘱しました。

椎名さんは4年前から左義長まつりに来ていて、雑誌などで「日本一のまつり」として紹介しています。

左義長まつりを絶賛する理由として「やっている人が本当に楽しそうで、見ている人まで楽しくなって、うれしくなっていくが弾んでくる。雑誌の企画で日本全国のいろんな祭りを見てきましたが、こんなのはなかなかありません。また、一番寒いこの季節にこれだけの熱気があることがありがたい。」と説明しました。

また、「櫓の上で演じている人たちの表情が、みんなとてもいいので、ぜひ写真に収めて帰りたい。」とのこと、28日夜のドンド焼きまで精力的にカメラを手に歩いています。これからも、全国に勝山左義長まつりの魅力をアピールしていただきます。



## 笑顔があふれる晴れ舞台 わたしも主役

盛大にドンド焼き

28日夜には、フィナーレを飾るドンド焼きが行われました。神明神社から採火された御神火が弁天河原へ運ばれると、並べられた14の御神体に一斉に火が点けられ、一瞬にして天を突くような炎が舞い上がりました。そして、訪れたかたちは、ドンド焼きの火柱の前に、1年の五穀豊穡を願っていました。



椎名誠氏に「かつやま“左義長”大使」を委嘱する山岸市長

